

「板橋区いのちを支える地域づくり計画 2022」推進事業
 実績調査及び評価報告について

区では、自殺対策を推進するための個別計画として、令和2年度から令和4年度までを計画期間とした「板橋区いのちを支える地域づくり計画 2022」（以下「いのちの計画 2022」という）を策定し、自殺対策に取り組んでいる。次期計画である「いのちを支える地域づくり計画 2025（仮称）」を策定するにあたり、令和3年度までの各施策の進捗状況を確認・分析し、報告する。

1. 新型コロナウイルス感染症が推進事業に及ぼした影響

令和2年2月頃から世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の影響により、区でも多くの事業がやむを得ず中止・規模縮小や内容の変更を迫られた。「いのちの計画 2022」の推進事業においても、計画期間1年目である令和2年度は、多くの事業がやむを得ず中止・規模縮小となった。

計画期間2年目である令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大が収まらない中でも、各課がウィズコロナの視点で工夫を凝らしたことにより、中止せずに実施できた事業が増加した。

令和2年度から令和3年度において新型コロナウイルス感染症が「いのちの計画 2022」推進事業に与えた影響を表す評語及び施策別各評語内訳は以下のとおりである。

影響を表す 評語	事業数		増減	備考
	令和2年度	令和3年度		
従来通り	64	77	13	感染対策を講じた上で実施した事業が増加した
規模縮小	18	10	△8	人数制限等の措置を講じた事業が減少した
内容変更	9	13	4	内容変更（例：訪問→電話・ポスティングなど）により実施した事業が増加した
中止	14	1	△13	感染状況によって中止した事業が減少した
その他	3	7	4	⇒代替手段（例：対面→動画配信）等工夫を凝らして実施した事業が増加した
計	108	108		

2. 達成度評価評語

各事業の達成度評価にあたり、使用する評価評語については区の標準的な評価評語を準用した。

評価評語	定義
達成+	所管課における年度目標を上回る実績となっている。
達成	所管課における年度目標を全部または大部分達成している。 もしくは、計画事業が完了している。
未達成	事業の遅延・中止などにより、目標の全部または大部分が完了していない状態。

3. 基本施策における事業の進捗状況及び分析

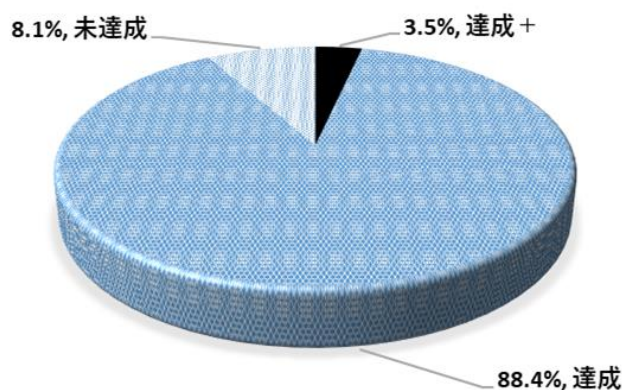
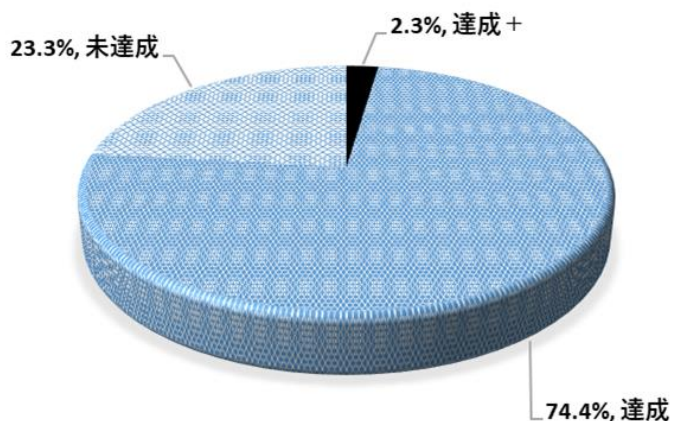
国が「全国的に実施することが望ましい」とする基本政策に沿って決定した基本施策における事業の進捗状況は、次のとおりである。

令和2年度の達成度評価評語が「達成+」または「達成」であった事業数は66（76.7%）であったのに対し、令和3年度の達成度評価評語が「達成+」または「達成」であった事業数は79（91.9%）と、「達成」以上になった事業数が増加した。

これは、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業自体を中止もしくは規模縮小せざるを得なかった事業が多かったのに対し、令和3年度は感染症対策を徹底しながら実施した事業や、開催方法をオンラインに変更することで実施できた事業が増えたことによるものである。

基本施策名	該当事業数 (件)	達成度指標別事業数(件)					
		令和2年度			令和3年度		
		達成+	達成	未達成	達成+	達成	未達成
(1)地域におけるネットワークの強化	13	1	7	5	2	10	1
(2)自殺対策を支える人材の育成	7	0	4	3	0	5	2
(3)住民への啓発と周知	10	0	5	5	0	9	1
(4)生きることへの支援	15	0	13	2	0	13	2
(5)子ども・若者への支援	41	1	35	5	1	39	1
計	86	2	64	20	3	76	7

令和2年度 達成度評価評語別割合 令和3年度 達成度評価評語別割合



4. 重点施策における事業の進捗状況及び分析

(1) 重点施策全体の進捗状況

区として特に、自殺予防・自殺対策が必要と考えられる「重点対象者」に向けて実施する対策を「重点施策」とした。事業の進捗状況は以下のとおりである。

達成度評価評語が「達成+」もしくは「達成」となった事業は、令和2年度は16件（72.7%）であったのに対し、令和3年度は18件（81.8%）となった。

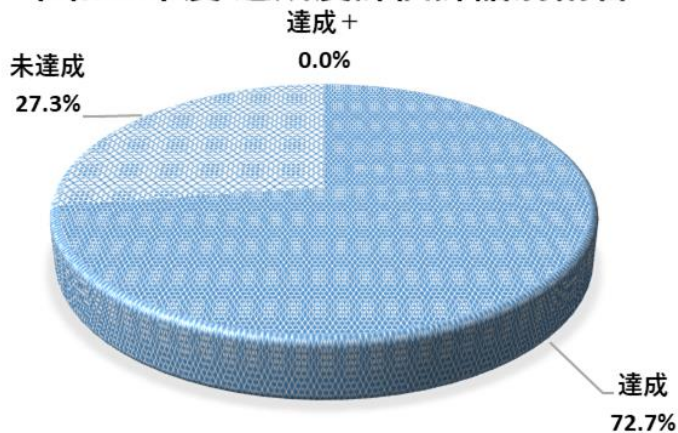
また、令和2年度、令和3年度において達成度が「未達成」となった事業の多くは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業を中止もしくは規模縮小せざるを得なかったことに起因しているものである。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響はあったものの、令和2年度、令和3年度ともに事業実施のための様々な工夫を凝らし、概ね順調な結果となった。

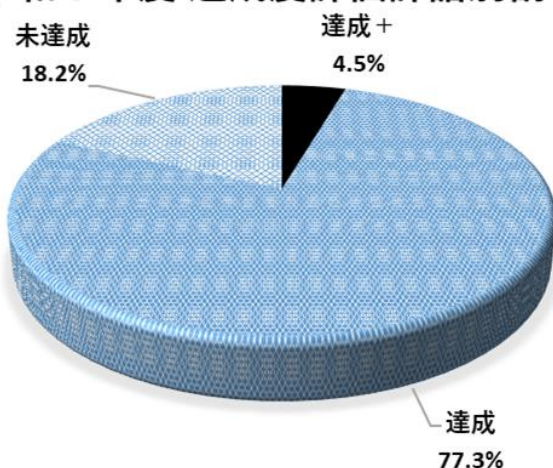
一方で、2年連続でコロナが及ぼした影響を表す評語が「中止」となってしまう事業も見受けられるため、令和4年度はウィズコロナの視点をより強くしながら事業を実施することが求められている。

重点施策名	該当事業数 (件)	達成度指標別事業数(件)					
		令和2年度			令和3年度		
		達成+	達成	未達成	達成+	達成	未達成
重点施策1 生活困窮者・無職者・失業者への支援	10	0	8	2	1	8	1
重点施策2 地域とのつながりが持ちづらい中高年男性への支援	12	0	8	4	0	9	3
計	22	0	16	6	1	17	4

令和2年度 達成度評価評語別割合



令和3年度 達成度評価評語別割合



(2) 施策ごとの実施状況(抜粋)

重点施策	事業名	令和2年度	令和3年度
重点1：生活困窮者・無職者・失業者への支援	生活困窮者自立支援事業	達成	達成
	就労相談（キャリア・カウンセリング）	達成	達成
	いたばし若者サポートステーションでの就労支援	達成	達成
	アクティブシニア就業支援センターでの相談支援事業	未達成	達成
	消費者センターでの債務相談	達成	達成
	東京司法書士主催「いのちを守る何でも相談会」の周知	未達成	未達成
重点2：地域のつながりが持ちづらい中高年男性への支援	おとしより相談センターでの相談支援	達成	達成
	区民健康なんでも相談	達成	達成
	板橋区版地域包括ケアシステム「板橋区版AIP」の確立	達成	達成
	町会・自治会・板橋区町会連合会	達成	達成
	認知症施策	達成	達成
	介護者こころの相談事業	達成	達成

5. 「いのちの計画 2022」の事業実績の評価

令和3年度末で達成度評価評語が「達成」または「達成+」となっている事業の割合は、基本施策が91.9%と高水準、重点施策が81.8%と順調な達成度となっていることから、令和2年度から令和3年度における「いのちの計画 2022」の進捗状況は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けつつも、概ね順調であったといえる。

一方で、国が発表した人口動態統計によると、区における自殺者数は、令和元年には78人であったが、令和2年は93人と増加傾向にあり、自殺対策の重要性・必要性がより高まっている。

また、本来であれば自殺対策において非常に重要である「つながり」が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大きく阻害されたという実情も無視できない。今後は「SOSを適切に捉えること」や「ゲートキーパーの周知・育成」といった「つながりの再構築」の必要性も高まっているといえる。

以上のことから、「いのちを支える地域づくり計画 2025（仮称）」の策定は、本報告を踏まえつつ、施策の位置づけの再編なども視野に入れながら適切に行う。